

令和 7 年度学校自己評価報告書

令和 7 年度の教育活動の自己評価をグランドデザインに基づき、以下に示します。

1 学校教育目標について

令和 7 年度から学校教育目標の一部を変更し、スローガンとして「自立への準備」を掲げ、教育活動に当たった。

＜学校教育目標＞

自ら学び考えを深める／進んで協力し責任を果たす／健康的な心と身体を育む

保護者アンケート：教育目標を知っている。 肯定的意見：71%

各教科・総合的な学習の時間・特別活動・部活動・給食・清掃など学校生活に関わる教育活動は学校教育目標に沿った活動になるよう、引き続き意識して進めていく必要がある。

2 重点目標及び具体的な取組

＜重点目標に対する評価＞

- (1) 生徒の自治・体験活動を実施し、そこで得た経験を振り返り、発表・発信を通して、達成感・充足感・自己有用感を育て、将来的な自立への基礎を作る。
- (2) 生徒が自ら学びに向かう授業の実現に向けた校内研修を継続して実施し、教員の授業力・生徒指導力の向上を図る。

＜具体的な取組に対する評価＞

(1) 生徒会活動の活性化

生徒会朝礼の見直しを行い、周知が必要な委員会のみ発表する形式に変更した。また、各委員会がプレゼンテーションソフトを用いて、分かりやすく周知する場面が増えてきた。

生活の決まりを自分たちで意見を出して、試行として実施して改善する経験から、身の回りの生活を変えていく経験となった。

生徒アンケート：自分の意見で学校生活を変えられると思う。

肯定的意見：77.5% 否定的意見：19.8%

生徒アンケートで否定的意見が最も多かった項目である。生徒の意見表明の仕組みを見直す必要がある。

(2) 「生徒主体の教育活動」の成果発表の場を創出

学芸発表会で委員会活動や行事・教科で得た成果を発表する場面を設けた。自分たちの成長を振り返りながら、他学年・地域・保護者に成果を発表するとともに、下級生が近未来をイメージし、見通しを持って学校生活を送るための機会となった。

生徒アンケート：委員会活動や係活動に積極的に参加したいと思っている。

肯定的意見：77.4% 否定的意見：19.2%

上級生がお手本となる教育活動の好循環を軌道に乗せることが重要である。

(3) 授業力向上の校内研修の取組

学習評価を授業者が生徒に明確に示し、生徒が見通しをもって授業に取り組める授業の展開を目指して研修を行った。

生徒アンケート：学校の授業は、分かりやすい。

肯定的意見：81.5% 否定的意見：14.3%

生徒アンケート：評価の基準を理解している。

肯定的意見：83.1% 否定的意見：14.3%

授業内評価を推進し、テスト偏重主義からの脱却が課題である。信頼と客観性を高め、生徒が納得する評価を追求していく。

(4) 校内委員会を中心とした生徒理解の充実

毎週特別支援校内委員会を実施し、生徒理解とその支援について協議を行った。学びの多様化推進教師の配置で、より具体的な支援策を実行することができた。また、学校外の機関と連携し、教員が新たな知見を得る研修会を実施した。

教室外での校内の居場所として「すてっぷルーム」と称する別室指導教室を整備した。学校生活サポーターの指導で教室復帰の手立てとしている。

生徒アンケート：先生は、生徒を丁寧に指導している。

肯定的意見：90.7% 否定的意見：6.3%

保護者アンケート：本校の教職員は、生徒を丁寧に指導している。

肯定的意見：88.4% 否定的意見：4.1%

生徒の個性に応じた支援が求められる中で、学校として「できること」「できないこと」を明確に示していく必要がある。できることに関しては、教職員で共通理解を図り、確実に進めていく。

(5) CSを活用した地域との連携の明確化

子どもを育てる場面を明確に3つに分けて、地域との連携を進めることができた。地域の方々・保護者（PTA）の方々のご協力を得て、生徒が様々な経験の中で成長できる機会となった。

① 地域が子どもをそだてる場面（基本的に桜木中学校の教員は参加しない）

経堂地区地域環境美化清掃活動・ふれあいキャンプ飯
ふれあいドッジボール大会
世田谷小学校運動会
桜小学校桜っこフェスタ・寒餅会
上町地区こども大会

② 地域と学校が子どもを育てる場面

地域合同防災訓練・職場体験学習・部活動外部指導員・英語検定
日本語・世田谷ボロ市・体育大会・学芸発表会・卒業式
卒業遠足（オオクラボウル）

③ 学校が子どもを育てる場面

各教科の授業・学び舎合同イベント（中2・小5）

生徒アンケート：地域の人との関わりは大切だと思う

肯定的意見：86.8% 否定的意見：8.6%

保護者アンケート：地域の人との関わりは大切だと思う

肯定的意見：95.3% 否定的意見：4.7%

青少年委員会主催のボランティア活動に積極的に参加する伝統は継続している。その中で新たに学び舎小学校からのボランティア活動が増え、生徒が地域に貢献できる環境が増えてきた。

(6) 教育課程の再編

「当たり前」や「例年通り」「今までそうだったから」を見直し、教育効果を維持しながら下記の改善を実施した。

- (1) 電話対応時間の変更 8:00～18:00
- (2) 最終下校時刻の変更 4月～8月 18:00 9月以降 17:45
- (3) 定期考査の回数 学期1回（3年生は1・2学期のみ）
- (4) 3年生面接予備練習 1・2年生教員が面接指導
- (5) 防災委員会の取組

有志による生徒防災委員会を発足し、テーマに沿った安全指導の内容を生徒がプレゼンテーションソフトにまとめ、全校生徒に発表することで、安全意識の向上を目指した。また、地域合同防災訓練では、地域の避難所運営委員の方々から事前指導を受け、携帯トイレの使い方防災委員が指導者となって講習を実施した。

(6) 普通救命講習

世田谷消防署・消防団を講師として招聘し、3年生全生徒が普通救命講習で認定証を取得した。

生徒アンケート：学校は、安全・防災について考える機会がある

肯定的意見：94.5% 否定的意見：5.5%

保護者アンケート：学校は、安全・防災について指導している

肯定的意見：91.9% 否定的意見：1.2%

防災委員会では事前のプレゼンテーション作成段階で、防災委員会内で多くの協議を重ねて発表した。生徒視点からの発信で、安全指導が定着したものと考えられる。

今実施しているものを見直し、当たり前やこだわりを捨て、目的を達成する手段をさらに追求し、教育の質の向上と教員の働き方改革の両立を実現していく。